

第3章 区域計画



第4期計画の方向性

中区の多くの区民が歴史や文化のあるまちとして、中區に愛着を持っています。将来に渡って中區のすばらしさを継承していくには、そこに暮らす子ども・障害者・高齢者・外国人を含め、すべての人が安心して生き生きと暮らす地域共生社会にしていく必要があります。

また、第3期計画を進める中で、活動している方から「計画を知らない人が多い」、「一部の住民によって活動が支えられている」、「多くの活動があるが、関係者以外に知られていない」等の声がありました。このことから、第4期計画では「もっとみんなの『中なかいいネ!』」を目指します。

1 5年後の目標

もっとみんなの「中なかいいネ!」 ～相互理解を進めよう～

「中なかいいネ!」は区民による区民のための計画です。「もっとみんな」とは、子どもから働き世代・高齢者までの全世代、障害者・外国人等の当事者も含め、すべての人です。そして、住民だけでなく、企業や事業所などの働く人も含め、お互いに理解し合うことを目指します。

2 活動の2本の柱

推進の柱

1

見守り力を高める「えん結び」

お互いに関心を持ち、
みんなで暮らしの困りごとの解決に
取り組みましょう

推進の柱

2

健康づくりの「元気いっぱい」

みんなでこころとからだの
健康づくりに取り組みましょう

「もっとみんなの『中なかいいネ!』」を進めていくために、様々な人の気づきを分かち合うことが重要です。より良い地域づくりのために、みんなの想いを共有し、意見を出し合ひましょう。(対話) また、変化する社会の今を知り、私たちの活動のヒントを得る学び合う場をつくっていきましょう。(学び)

3 地域活動を推進する3つの土台

= 人財・交流・情報の強化

仲間を増やす **人財**

困りごとの解決に向けて
協働する人財を
育成・発掘します

交流 することで気づく

周りの人に関心を持ち、
他の団体の活動趣旨や
困りごとに気づきます

動機づけとなる **情報**

暮らし続けるために
そのまちのことを知ります

第3期計画から、困りごとに気づくための見守り力を高め、助け合いを広げること为目标に、各地域で様々な「えん結び」の取組が行われています。第4期計画では、更に「もっとみんな」に広がっていきます。

中なかいいネ!で見守り力を高める「えん結び」

目標 お互いに関心を持ち、みんなで暮らしの困りごとの解決に取り組みましょう

もっとみんなで見守るには

- ★ 住む人、働く人も一緒に、世代を超えて取り組みましょう。
- ★ お近くの知り合いを増やしましょう。
- ★ 「お互いさま」の身近な助け合いを増やしましょう。
- ★ 挨拶や声かけをして、気軽に話し合える関係を広げましょう。
- ★ 強制されるものではありません。できることから始めましょう。
- ★ 高齢者、障害者、外国人等の力も必要です。みんなが主役です。
- ★ 暮らしの困りごとは人それぞれです。
地域にいる多様な人に目を向けましょう。



中なかいいネ! 推進会議・地域の会議でのご意見

- ひとり暮らし高齢者や外国人の増加等により、社会的孤立の課題が増える。
- 障害者について考えることが少なかった。
- 地域で暮らしている生活困窮者やひきこもり等の困難を抱えた人との接点が少ない。
- 子育て世帯が近隣との交流が少なく、地域とつながれていないのではないか。
- 共同住宅では、近隣の状況を把握することが難しい。
- 外国人に分かりやすい情報提供をし、一緒に地域づくりをする必要性がある。
- コロナ禍であっても、地域はできることから取り組んでいる。

グループインタビューでのご意見

- 必要としているサービスや制度がない人が地域や社会から取り残されているのではないか。
- 外国人も日本人と同じような困りごとがあり、一緒に考えることが必要。
- 地域の取組を知ってもらい、参加してもらうことで、仲間を増やせると良い。
- 困っていないうちから、地域とつながっておくことが大切。

令和元年度中区区民意識調査

隣近所との付き合いは少ないが、困っている方への手助けや災害時の手助け、また、外国人と生活習慣を知り合う必要性を感じています。

- 「隣近所との付き合い方」について「互いに干渉しあわず、さばさばして暮らしやすい」が70%超となっている。
- 「隣近所の困っている方にどのような手助けができるか」について、「話し相手・相談相手になる」が36%で最も高く、次いで「災害時の安否確認や避難の手助け」が27%、「話を聞いて、民生委員や行政に連絡する」が25%となっている。
- 「日本人と外国人がともにより良く暮らすために必要だと思うこと」について、「地域のルールを確認し、互いに教え合う」が日本人は50%、外国人は30%弱となっている。また、「互いの国の文化や生活習慣を知り合う」については、日本人が40%、外国人は60%となっている。

3

計画推進の柱2 健康づくりの「元気いっぱい」について

第3期計画から、こころとからだの健康を目標に、各地域でまちぐるみの健康づくり「元気いっぱい」の取組が行われています。第4期計画では、更に「もっとみんな」に広がっていきます。

中なかいいネ!で「元気いっぱい」

目標 みんなでこころとからだの健康づくりに取り組みましょう

もっとみんなで元気になるには

- ★ ゲストとして参加するだけでなく、**できることを担って参加**しましょう。
得意分野で力を発揮しましょう。
- ★ 年齢、健康状態、障害の有無、国籍等にかかわらず、**自身ができる範囲で参加**しましょう。
- ★ 運動が苦手でも、**交流することが健康**につながります。
- ★ **身近な場所で、誰もが自由に参加できる活動**にしましょう。
既存の活動を工夫しましょう。
- ★ 身近な人は健康でしょうか。**声をかけ、活動に誘い**ましょう。
- ★ **健康に関する情報を共有し、みんなで学び**ましょう。



中なかいいネ! 推進会議・地域の会議でのご意見

- 健康づくりは個人と地域の両輪で取り組む必要がある。
- 気軽に参加できる介護予防・健康づくりの取組が必要。
- 健康意識は高いが、健康づくりの具体的な行動につながらない人が多い。

令和元年度中区区民意識調査

健康に不安を感じている人が多くいます。

- 自身が不安に感じていることについて、「運動不足」が最も高く、次いで「身体の健康(病気や障害など)」となっている。
- 自身の健康状態については、70歳以上で「どちらかという健康でない」、「健康でない」が合わせて30%以上。

トピックス

Topics 公園での健康づくり

公園は緑の中で散歩やスポーツ等が楽しめる場です。周回できる園路や健康器具、広場やベンチなどを有効活用し、健康づくりに取り組む拠点として利用してください。

▶▶ 健康器具って?

健康器具とは、使用することにより気軽にストレッチ・筋力・バランス運動や運動効果の測定を行うことができる器具のことです。身近な公園で健康器具を利用いただき、毎日の健康づくりの促進、生活習慣病の予防、世代間の交流の場としていただければと思います。

▶▶ 中区公園マップが改訂されました! マップを片手に公園巡り

中区内の公園を紹介した『中区公園マップ』が4年ぶりに改訂されました。健康器具が設置されている公園や桜が見られる公園を紹介していますので、『てくてくウォークガイドブック』と併せて中区内の公園を巡ってみませんか。英語・中国語・ハンガルに翻訳した外国語版の公園マップも発行しています。





4

「えん結び」と「元気いっぱい」を推進する組織や団体

中区連合町内会長連絡協議会

自治会町内会は、近くに住む者同士が交流を深めるためのお祭りや運動会などの楽しいイベントを行っています。また、防災、防犯、清掃活動など日々の暮らしを支える活動を行っている住民の自治組織です。より多くの区民の皆様に地域で行われている活動についてご理解いただけるよう、13地区の地区別計画を周知するご協力をさせていただきます。



中区医師会

中区医師会は、気軽に相談できるかかりつけ医を中心に、歯科医師会、薬剤師会、獣医師会と連携して、地域に根ざした健康づくりに貢献してまいります。

中区歯科医師会

近年、「口の健康は全身に影響する」と様々な観点から口腔ケアの大切さが取り沙汰されています。中区歯科医師会では、地域医療連携と口腔保健活動を中心に、「中なかいいネ!」に協力するとともに、中区民の皆さんの健康増進と疾病予防に貢献してまいります。



中区薬剤師会

【えん結び】インターネットによる遠隔での見守りが可能になり、ソーシャル・ネットワーク・サービスによりつながりやすい社会になっている一方で、地域の共同体が失われ、よそよそしい関係になってしまいました。かかりつけ薬剤師は、企業利益のためでなく、住民、行政と対等なパートナーとしてソーシャル・キャピタルの潜在力になることを目指します。

【元気いっぱい】薬剤師は、「医療」の仕事であると同時に、地域住民の「公衆衛生」を重要な使命と考えています。健康についての相談は、まず薬局へおいでください。



中区障害者団体連絡会

当会は、区内の70以上の障害当事者・支援団体の連絡会です。障害のある人が、安心して元気に地域で生活できることを目指し、活動をしています。また、障害者の高齢化に伴う問題にも取り組んでいます。当会が毎年主催しているポレポレまつりは、地域の方々に好評をいただいています。障害があっても、地域の縁の中で生活していける社会をつくっていきます。



中区ボランティア連絡会

当会は、障害当事者・高齢者等の生活支援、清掃活動等、様々な団体からなり、2021年度には、活動の裾野を広げるため、起こるであろう大地震に備える「中区災害ボランティア連絡会」を発足する予定です。区民の方、中区で働いている方たち、一緒にこのまちの安心、安全、つながりづくりのために、一緒に活動しませんか。お問合せは中区社協へ。



中区中学校長会

中区中学校長会は、横浜吉田中、仲尾台中、大鳥中、本牧中、港中の5校で構成しています。新型コロナ対策のため、新たな日常生活の基本を守りながら、次代を担う中学生たちが少しでも明るく前向きに学校生活を過ごすことができるよう日々努力しています。中区の「えん結び」の中で活躍できる若い力を育成します。

中区民生委員児童委員協議会

民生委員・児童委員が自治会町内会と協力して開催する食事会やサロンには笑顔があふれています。その笑顔がみんなの心の健康につながり、私たちの活動の励みになっています。

その反面、地域社会から孤立しがちな方もいらっしゃいます。

すべての人に笑顔があふれ、住みやすいまちとなるよう、気づき、学び、つながりを大切に地域を支えています。



中区主任児童委員連絡会

孤立しがちな子育て世代の悩み、子どもを取り巻く問題は多岐に渡ります。

各地区での親子のひろば、子育てサロン、赤ちゃん学級などの運営に協力しています。小・中学校や関係機関との連携などを通して、地域のパイプ役・身近な相談相手として地域の中で寄り添いながら話を聞き、一緒に考える支援を続けます。

中区保健活動推進委員会

保健活動推進委員会の活動テーマは「地域の健康づくり」。ウォークを兼ねた社会見学・ノルディックウォーキング・森林公園ウォーキング、保健師さんの協力による健康ミニチェック、ふれあい給食、子育てサロン、素敵な講師指導によるラジオ体操、健康づくり教室での体操など、各地区で工夫を凝らして様々な活動をしています。声を掛け合って地域全体みんなが笑顔になるよう取り組んでいます。



中区食生活等改善推進員会

「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに、『栄養・運動・休養』の健康づくりの3本柱の普及啓発をするための活動を行う全国的なボランティア団体です。

会員一人ひとりが健康づくりを実践することが活動の基本です。その体験に基づいた知恵と工夫を地域の子どもから働き世代、高齢の方たちにお伝えしています。



中区青少年指導員協議会

青少年の健全育成を図ることを目的に活動しています。今後も子どもたちが健やかにのびのび育つような地域環境を継続してつくっていきます。

- 小学校をお借りして子供たちに昔遊びや工作の指導をするイベント等を行っています。
- 中区文明開化ウォークラリーや各地区活動では、地域の交流を深めるためスポーツ推進委員と合同開催する行事もあります。

中区スポーツ推進委員連絡協議会

地域に根ざしたスポーツの振興、及び健康づくりの推進を目的に、子どもから大人までさまざまな世代が楽しめる事業を企画していきます。

- ドッジボール大会やソフトバレーボール大会などのイベントを行っています。
- 文明開化ウォークラリーや各地区活動など、地域の交流を深めるための青少年指導員と合同開催する行事もあります。



中区老人クラブ連合会

老人クラブの三大運動は、「健康」「友愛」「奉仕」で、各老人クラブで実践されてきており、2020年1月に「市老連の行動計画 2020-2024」が策定されました。第4期中区地域福祉保健計画「中なかいいネ！」では、今後5年間は、「えん結び(見守り・つながり)」と「元気いっぱい(元気づくり)」に関する取組を行なうとされています。老人クラブの活動は「中なかいいネ！」の推進につながります。会員の拡大を図り、新しい生活様式で、老人クラブ活動を行っています。



経済界も、中区(民)と「いろいろな縁、で結ばれた区民の一員です。区民の皆様、中区役所を中心とした行政機関、各公益団体の皆様方と協力し、地域福祉の増進や課題の解決に貢献してまいります。

横浜商工会議所

(公財)横浜市国際交流協会

区内の多文化共生を進めるため、外国人と地域社会の橋渡しの役割を担います。外国人との「言葉の壁」「文化の壁」を感じたらラウンジに連絡ください。地域の皆さんとご相談をしながら、通訳、翻訳等を通じて外国人の地域社会への参画を進めてまいります。



中区地域ケアプラザ

地域ケアプラザは積極的に地域に出向き、今ある活動の継続支援や、誰もが身近に楽しく集える居場所づくりの発掘など、住民の皆様や関係機関と協力し、「活力ある中区」を目指した地域づくりに取り組みます。

また、広報紙・SNS・ラジオなどを活用して情報発信し、あらゆるニーズの相互理解とコミュニティーの活性化に取り組みます。

(福)横浜市中区社会福祉協議会

中区民同士が「つながり」と「元気いっぱい」で支え合い、安心して暮らしていくことができるまちづくりを実現するため、社協本来の役割であるネットワーク機能を強化・拡充し、地域福祉の基盤強化・福祉力の向上に取り組みます。中区社協は地区社協をはじめとする地域の皆さんの想いを大切にして、計画の推進に取り組んでいきます。



中区役所



中区は、誰もが安心と活力を実感するまちを目標に、SDGsの視点を踏まえ、共生社会の実現に取り組んでいます。誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けていくためには、中区に住む人・働く人すべての人が「オール中区」の一員として取り組むことが必要です。暮らしの困りごと気づくための「見守り力」が高まり、身近な助け合いが増えるよう、地域のつながりづくりを進めていきます。また、年齢、健康状態、国籍等にかかわらず、誰もが一緒に行う「こころとからだの健康づくり」の活動の輪を広げていきます。

中なかいいネ！ 推進会議委員長

このたび「第4期中区地域福祉保健計画中なかいいネ！」の推進会議委員長としてお手伝いさせていただきました。コロナ禍の影響で、多くの逆境の中で計画が作り上げられました。

そして、いよいよ計画は実施段階に入ります。あらゆる立場の皆さんの参加と協力と連携によって、魅力いっぱいの中区が、みんなが安心して豊かで健康に暮らせる一層魅力的なまちになるよう祈念いたします。



5

地域の取組を推進する3つの土台

人財

交流

情報

地域の助け合いにより、見守り力を高める「えん結び」とまちぐるみで健康づくり「元気いっぱい」の取組が数多く行われていますが、今後も取組を進めていくうえで、重要なお意見をいただいています。

第4期計画では、その解決に向け、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザが中心となり、地域の組織や団体、企業・事業所等と協働し、3つの土台を強化していきます。

強化するための工夫として、区民が学び合え、対話できる機会をつくり、①仲間を増やすこと(人財)、②交流することでの気づき(交流)、③暮らし続けるためにそのまちのことを知ること(情報)を目指します。

区役所

地域で起きる生活の困りごと(地域課題)は、様々な分野に渡るため、区役所各課の業務上でも地域課題を意識し、各課で連携して進めます。地域課題を住民と検討する際は、市や区が保有しているデータを分析し、提供します。

また、広く区民に情報提供するために、広報等による周知を工夫します。

区社会福祉協議会

「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会をみんなでつくりだす」という活動理念のもと、地域住民や社会福祉関係者などが会員となり構成された協議体です。

『地域福祉の推進役』として民間団体である強みを活かし、会員(特に、身近な地区に設置されている地区社会福祉協議会)とともに地域住民や様々な団体等とネットワークをつくり、地域づくりを進めていきます。

また、活動を応援するための助成を行います。

地域ケアプラザ

中学校区を目安に設置されているため(中区は6か所)、気軽に立ち寄って相談したり、地域の福祉・保健活動を行ったりするために利用できる施設です。福祉・保健に関する職員が、施設内だけではなく地域に出向いて、相談をお受けしています。隣近所や自治会町内会等の小さな単位での居場所づくりや助け合い等の活動を一緒に考え、進めていきます。

1 人財

「人財」という意味は？

「人材」こそが地域の「宝」という考え方から、第3期計画から「人材」=「人財」として言葉を使用しています。

第3期計画でのご意見

- 限られた担い手で活動を支えており、過度な負担となっている。高齢化している。
- 現役世代や子どもの活動が少なく、参加する意義が共有されにくい。
- 新しい人が参入しやすい環境になっていない。
- 活動の多様化や増加により、担い手が不足している。
- 参加者は増えるが、運営者がいない。支援する人、される人と分けずに、受け手が担い手にもなり得る啓発が必要。
- 事業所や企業とのつながりが少ない。中区に根付いている企業との協力が必要。



第4期計画のポイント

仲間を増やす

困りごとの解決に向けて、協働する人材を育成・発掘する

- 地域活動に参加したことがない働き世代等に向けて地域参加のきっかけづくりを行います。
- 地域で活動している人のスキルアップとして、異なる分野の活動者との交流の機会をつくります。
- 区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザがそれぞれで行っている人材育成の取組を共有し、連携して進めていきます。



区役所 の主な取組

- 地域の福祉保健関係者に生活困窮者の自立に向けた制度の理解を広げます。
- 異なる分野の活動者が情報を共有し活動の幅が広がるよう、人材育成ワークショップを開催します。
- 認知症高齢者も助け合いながら暮らせるまちづくりを目指し、中区に住む人・働く人の認知症キャラバンメイトを支援します。
- 地域で活躍できる新たな人材を発掘する「風おこせ!プロジェクト(人材育成講座)」を開催します。
- まちぐるみで健康づくりに取り組めるよう保健活動推進員・食生活等改善推進員・スポーツ推進委員が情報共有し、連携できるよう支援します。

区社会 福祉協議会 の主な取組

- 区域の課題を解決するためにテーマ型活動団体(生活支援ボランティアグループ等)の開発と育成を進めます。
- 特定の課題解決に取り組んでいるNPOや企業等との連携により担い手を拡大し、高齢者・障害者の生活支援(買い物支援・移動支援等)と見守り活動を進めます。
- ボランティア連絡会等のネットワークを活用したボランティア養成講座や交流会を開催し、人材発掘と育成を進めます。

地域 ケアプラザ の主な取組

- 地域活動に若い世代の参加が増えるよう、各地区で開催している防災の取組をはじめ、地域のイベントに合わせた事業を企画し、人材の育成と発掘に取り組みます。
- 商店会やスーパー等の企業とのつながりを深め、生活に必要な買い物支援等の仕組みづくりに取り組みます。

2 交流

第3期計画でのご意見

- 地域活動や行事の参加者が減少している。
- 限られた人の居場所となっており、身近に誰もが気軽に参加できる居場所が少ない。
- 気軽に参加できる健康づくりの場がない。
- 障害児・者との交流が少ない。
- 多くの人が集まるお祭りや伝統行事を生かしていない。
- 地域行事の連携や各自治会町内会の横のつながりが薄い。
- 集合住宅が増加しており、オートロックマンションが多く、生活実態が見えにくい。



第4期計画のポイント

交流することで気づく

周りの人に関心を持ち、
他の団体の活動主旨や困りごとに気づく

- 住民が住んでいる地域のことを理解し、困りごとの解決に向けて住民同士で話し合うことができる機会をつくります。
- 障害者や外国人等も地域参画ができるように相互理解を進めるとともに、きっかけづくりを行います。
- 企業や事業所が地域住民と連携して地域活動を実施することを目指し、知り合う機会や協力の依頼をしていきます。
- 団体間で情報交換ができ、新しい活動や連携した取組を目指し、交流を促進します。



区役所 の主な取組

- 多様な人がお互いに助け合うまちづくりを目指し、活動の目的が同じ団体の交流だけでなく、異なる活動をしている団体と情報共有ができる機会をつくります。
- 地域で緩やかに子どもの成長を見守るために、様々な親子が交流し、地域とのつながりが広がる親子の居場所をつくります。
- 国籍等によらず、地域で助け合える関係づくりにつなげるために、外国人と日本人が共に活動・交流できる機会を増やします。

区社会 福祉協議会 の主な取組

- 「住民支えあいマップ」の作成等を活用し、地域人材の発掘や課題を解決する仕組みづくりを進めます。
- 新たな見守りや居場所づくり(オンラインサロン・住み開き等)を広めます。
- 高齢者に限らず、障害者や外国人等が交流できるよう、つながりづくりを進めます。

地域 ケアプラザ の主な取組

- 「住民支えあいマップ」の作成等をきっかけに、住民同士の交流を図り、見守りや支え合い活動の充実に取り組みます。
- 様々な人が暮らす中区において、障害者や外国人等も気軽に参加できる講座を企画し、相互理解の推進に取り組みます。

3 情報

第3期計画でのご意見

- 周知の対象が限られており、必要な情報が必要な人に届かない。地域活動に参加していない人に情報が伝わらない。
- 交流の場を生かした情報共有ができていない。
- 地域関係者と福祉・保健・医療関係者、市民活動者、企業等の多様な連携が必要である。



第4期計画のポイント

動機づけとなる情報

暮らし続けるためにそのまちのことを知る

- 住民がまちの情報を得ることにより、地域や地域活動に関心が向くよう、HP・SNS・マリンFM等の情報媒体を活用していきます。
- 国籍、年齢、性別、障害の有無等、様々な立場や背景を踏まえた多様性があることについて、相互理解を進めるための情報提供をしていきます。



区役所 の主な取組

- 経済的な困りごとや仕事探しの困りごとなど、必要なときに相談につながるよう、生活保護制度及び生活困窮者自立支援制度を分かりやすく周知します。
- 障害があっても、助け合いながら暮らせるまちづくりを目指し、分かりやすい周知を当事者とともに進めます。
- 健康器具設置等の情報が入った『中区公園マップ』を活用し、多くの人が健康づくりに取り組めるよう情報提供をします。
- 中なかいいネ！推進会議委員が所属する機関や団体をはじめ、地域福祉保健計画と一緒に推進する関係者に地域福祉保健計画を周知します。

区社会 福祉協議会 の主な取組

- 区社協HPやマリンFM等を活用し、福祉に関する情報を提供します。
また、必要な情報が必要な人に届くよう、区社協が持つネットワーク等を生かし伝えていきます。

地域 ケアプラザ の主な取組

- 各地区の商店会や企業等と連携し、広報紙やSNS、マリンFM等により、様々な角度から地域情報の発信に取り組み、地域の魅力を伝えていきます。

地域の中で3つの土台を進める取組例

地域で行われている取組の中でも、**人財**・**交流**・**情報**の強化に効果がつながっています。

地域の健康づくり

例えば、子どもも大人もみんなで行うラジオ体操では

自分の力を地域で発揮

- 参加した中学生がみんなの前に出て、体操のポイントを教えてくれるようになった。
- 参加している高齢者が、会場前の信号機のない道路を横断する小学生のサポートをしてくれるようになった。



交流することで困りごとに気づく

- 毎回参加していたひとり暮らしの〇〇さんが来なくなったので、体操後に一緒に帰宅していた人たちで様子を見に行くことにした。持病の腰痛で外出が困難になっていたことに気づくことができた。

暮らしやすくするための情報を届ける

- 外国語のチラシを掲示したところ、外国人が参加してくれるようになった。体操の前に外国語で挨拶するようになった。

地域の見守り

例えば参加自由の地域サロンでは

自分の力を地域で発揮

- 参加している高齢者が近所のひとり暮らしで、外出の少ない高齢者を毎回誘って参加させている。
- 親子で参加していた方が、子どもが入学したあとも、母親が引き続き参加し、受付を手伝ってくれている。



交流することで困りごとに気づく

- 車いすを利用している人が参加するようになった。防災の話になり、「避難場所が分からない」と聞き、町内の防災訓練時に誘うことにした。

暮らしやすくするための情報を届ける

- サロンで、重たい日用品の買物について困っているという話題が上がり、配達してくれる近隣のお店や宅配の情報を持ち寄って共有した。

Topics 様々な困りごとの解決の糸口を探します～生活困窮者自立支援制度～

地域に次のような生活にお困りの方はいませんか？

- 仕事を失ってアパートの家賃が払えない
- 借金や家計のやりくりで悩んでいる
- 仕事探しがうまくいかない
- 困りごとが多すぎて、どこに相談すればよいか分からない
- ひきこもり生活が長くなり、将来に不安を抱えている など



生活困窮者自立支援制度の内容

就労自立促進事業
ハローワークとの一体的な就職支援

家計改善支援事業
家計の立て直しをアドバイス

自立相談支援事業

- 困りごとの相談
- 自立に向けた支援

就労準備支援事業
就労訓練事業
就労に向けた段階的支援

一時生活支援事業
一時的に衣食住を提供

住居確保給付金
働くために住まいの確保を支援

区役所生活支援課では、自立相談支援機関として困りごとの相談を受け付けています！



担当の自立相談支援員がお話を伺い、どのような支援が必要かを一緒に考え、寄り添いながら自立に向けて支援します。必要に応じて、地域・関係機関と連携しながら支援を進めていきます。

また、生活の困りごとを抱えた方を見守り、孤立させない地域、必要な支援につなぐことができる地域を目指して、関係機関や地域の皆様とのネットワークづくりを進めています。

Topics 知っていますか？「成年後見制度」 ～自分の利益や権利を守り、安心して暮らし続けるために～

こんなことでお困りの方はいませんか？

- お金の管理がうまくできなくなってきた
- 契約の書類がうまく書けない、内容が分からない
- 通帳など、大事なものがどこにあるか分からなくなってしまった
- 福祉サービスを使いたいが、契約などの難しいことはよく分からない
- 自分の老後や、子どもの将来が心配 など



認知症や知的障害などがあると、自分の利益や権利を守るための判断がうまくできなくなり、困りごとや心配ごとが増えてきます。このような方々が安心して暮らせるように、生活や財産を守る、契約を代行するなどの支援を行う法的な制度を「成年後見制度」といいます。ご本人の気持ちや身体の状態、生活状況にあった支援を行う「成年後見人等」（家庭裁判所が選びます）が、財産の管理やサービス利用契約のお手伝いなど、さまざまな支援を行います。

「どんな制度なの？」「成年後見人を選ぶ手続きをしたい」など、詳しい相談は区役所（高齢・障害支援課）、地域ケアプラザ、基幹相談支援センター、区社会福祉協議会で受け付けています。ご本人のお気持ちを大切にしながら、身体の状態や生活の状況に合わせた支援と一緒に考えていきます。

計画をつくるために行った調査・企画① 令和元年度中区区民意識調査

中区では、区政に対する区民の評価、ニーズやまちづくりの課題を把握し、区政運営や政策立案の基礎資料として活用することを目的に、平成20年度からおおむね2～3年ごとに区民意識調査を実施しています。

令和元年度は「第4期中区地域福祉保健計画」及び「第2期中区多文化共生推進アクションプラン」の策定に向け、地域福祉、多文化共生を重要調査項目とし、外国人を含む18歳以上の区内居住者4,000人を対象に実施しました。

1 概要

調査対象	中区内に居住する18歳以上の方
対象数	4,000人(内訳／日本国籍3,500人、外国籍500人)
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	郵送配布・郵送回収 (外国籍の方へは、やさしい日本語・英語・中国語簡体字3種類の調査票を送付)
調査項目 (計48問)	<ul style="list-style-type: none"> ●属性質問(10問) ●中区の居住理由・居住意向、中区の魅力について(3問) ●中区の行政サービスについて(1問) ●「多文化共生」について(10問) ●「地域福祉」について(11問) ●「自治会町内会」「ごみ・資源回収」について(3問) ●「防災」について(7問) ●「行政情報」について(2問) ●自由意見(1問)
調査期間	令和元年7月18日(木)～8月9日(金)
回収結果	<ul style="list-style-type: none"> ●有効回収数 1,325 件(内訳／日本国籍1,242件、外国籍83件) ●有効回収率 33.1%【前回(平成27年度)調査実績37.7%】

2 調査結果のポイント(「中区地域福祉保健計画」関連部分のみ)

地域福祉	<ul style="list-style-type: none"> ●地域活動参加について、約40%の方が「関わりたいが今は活動できない」と回答し、年代別に見ると年代が上がるにつれて、参加意向が高い。 ●地域が住みやすくなるために特に必要だと考える取組について、30%を超える方が「災害に備えて近隣で助け合うしくみを作る」「支援が必要な方に早く気づくことができる体制を作る」と回答している。
多文化共生	<ul style="list-style-type: none"> ●外国人増加に関する意見について、80%を超える方が「自然な傾向である」と回答している。一方、約70%の方が「生活のマナーやルールが守られなくなる」、60%を超える方が「治安悪化の恐れが不安」と回答している。

計画をつくるために行った調査・企画② グループインタビュー

中区地域福祉保健計画に携わった、または、今後の計画に携わることが期待される人や団体に、グループでのインタビューを行い、区内の住民、企業や団体等の意見を把握し、計画策定に反映しました。

1 概要

実施時期・回数	令和元年11月～12月・計4回
インタビュー対象者(43名)	<p>【地縁役員・ボランティア団体】 麦田町町内会会長、モアレ横浜富士見町自治会長、寿地区民生委員、第1地区中部民生委員、関内地区主任児童委員、関内地区社協会長、新本牧地区社協会長、困りごと引き受け隊、生活支援KBT(希望の友)、本牧元町南部町内会ボランティア会はまなす</p> <p>【支援の狭間に陥る対象者を支える団体】 つながるcafé(認知症カフェ)、コミュニティカフェおしゃべりば、脳トレリーダー、丘の上の緑のサロン、障害児訓練会ちゅーりっぷ、不登校・ひきこもり支援 よこはま東部ユースプラザ、(社福)恵友会(障害者支援)、中区後見的支援室らるご(障害者支援)、NPO法人かながわ外国人すまいサポートセンター</p> <p>【福祉サービス事業者や相談員】 横浜市立みなと赤十字病院、中区在宅医療相談室、ポーラ訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所ケアサービスホクゼン本牧、小規模多機能居宅介護YMCAライフサポートセンター関内、有料老人ホームすいとび一本牧三溪園、東部学校教育事務所スクールソーシャルワーカー、学童保育所本牧かもめクラブ、中区地域子育て支援拠点「のんびりんご」、中区障害者地域活動ホーム「みはらしポンテ」、放課後等デイサービスこんぴす、就労継続支援B型ぷれいす、地域ケアプラザ</p> <p>【暮らしを支える企業や商店】 ひらがな商店会マーケットテラスカフェ、イオンリテール(株)イオン本牧店、横浜山元町郵便局、朝日新聞サービスアンカー ASA 本牧、中スポーツセンター、学習塾エクスペッション総合教育、野毛地区センター、福祉用具事業所ホクゼン・アメニティ・サービス</p>
実施者	NPO法人よこはま地域福祉研究センター／中区役所福祉保健課／(福)横浜市中区社会福祉協議会

2 主なご意見

- 必要としているサービスや制度がない人が、地域や社会から取り残されているのではないかと。
- 外国人も日本人と同じような困りごとがあり、一緒に考えることが必要。
- 子育て世帯が、近隣との交流がなく、地域とつながれないことが課題。
- 地域の取組を知ってもらい、参加してもらうことで仲間を増やせるとよい。
- 困っていないうちに地域とつながっておくことが大切。
- まちを元気にするための方法について、アイデアを出し合いたい。効果的な活動を教えてほしい。